

市内の城跡

戦国時代、筑後地方には全域を統一するほどの大大名がおらず、それぞれの地域ごとに勢力を持つ領主たちが共存共栄していました。同時に、大友氏をはじめ、島津氏や龍造寺氏などの近隣の有力大名が、その領地を巡って勢力争いを繰り返していました。そうした歴史を反映して、かつて市内には柳川城のほかにも、戦国時代に柳川一帯に勢力を誇った蒲池氏の居城・蒲池城や山門郡に勢力を有していた田尻氏の居城・鷹尾城など多くの城があったといわれています。それらはすべて江戸時代の「一国一城令」などにより取り壊され、現在その痕跡はほとんど残っていませんが、それぞれの地域では、記念碑を建立するなどして、大事に語り継がれています。

蒲池城跡之碑 西蒲池

戦国時代に筑後地方南部一帯を治めていた蒲池氏の居城で、蒲池盛鑑が柳川城を築城するまでは、その拠点だったと思われます。現在では、城跡などは残っていませんが、西蒲池に記念碑が建てられています。



蒲池氏百八人塚 大和町塩塚

筑後支配をもくろむ肥前の龍造寺隆信は、柳川城主蒲池鎮連を謀殺し、一気に柳川へ侵攻すると、柳川城、塩塚城などを次々に攻め落とし、柳川を制圧しました。現在、下塩塚にある蒲池氏百八人塚は、塩塚城落城の際に自決したといわれている鎮連夫人の玉鶴姫ら108人を祀ったものです。



白鳥古戦場跡 三橋町白鳥

現在はのどかな田園風景が広がるこのあたりは、筑後に侵出してきた肥前の龍造寺氏と柳川山門の領主たちとの激戦が繰り広げられたところと伝えられています。